

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【那賀振興局】アグリビギナー研修会を開催～講演を聴く参加者ら～

令和6年12月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入にむけての実証試験～	
2. 河西農業士会で農業者年金研修会を開催	
3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施	
4. 和歌山県の農業と行政の取組について出前授業を実施	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3</b>
1. アグリビギナー研修会を開催	
2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4-5</b>
1. 隅田地域農産物利用推進協議会が第39回野菜祭りを開催	
2. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会（果樹コース）第5回を開催～	
3. 農業技術講習会野菜コース（マメ科野菜と軟弱野菜）の開催	
4. クビアカツヤカミキリ対策研修会及び掘取研修会の開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6</b>
1. 浜のうたせにおいて「有田みかん」及び「日本農業遺産」をPR	
2. 温州みかん「あおさん」の特性調査を行っています！	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7</b>
1. 第39回美浜町農産物品評会が開催されました	
2. 温州みかんの冬季ジベレリン散布研修会を実施	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>8</b>
1. 稲成いちご研究会が栽培ほ場の巡回調査及び意見交換会を実施	
2. 中辺路町生活研究グループが中学校で出前授業を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>9-10</b>
重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】	
1-1. ～いちご定植ほ現地巡回を実施～	
1-2. ～くろしおイチゴ生産販売組合が先進地視察研修を実施～	
1-3. ～出荷検討会（めならし会）を実施～	

2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

## **Ⅷ 農林大学校**

**11**

1. 第5回農林大祭を開催
2. スマート農機演習を実施

# I 海草振興局

## 1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】

### ～天敵導入にむけての実証試験～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。いちご施設栽培では、農薬散布等の作業の省力化と、農薬連用による害虫の薬剤抵抗性の発達が課題である。また、ハチなどの受粉昆虫を利用することから、できるだけ農薬に頼らない栽培体系を確立する必要がある。そこで、管内では実績のないコレマンアブラバチの導入に向けて実証ほを設置し調査を行っている。アブラムシの天敵であるコレマンアブラバチは、アブラムシに産卵、寄生蛹となり防除効果を示す。現在、実証ほのいちご株でも寄生蛹が確認できている。引き続き調査を行い、栽培シーズンを通して効果を検証し、天敵導入技術の普及につなげていきたい。



通常のアブラムシ



寄生されたアブラムシ（寄生蛹）



調査

## 2. 河西農業士会で農業者年金研修会を開催

河西農業士会（会長：増田恵一郎氏）では、12月3日に中洲出荷組合会議室にて農業者年金についての研修会を開催し、会員7名が参加した。

和歌山県農業会議の向井元治氏を講師に、農業者年金についてパワーポイントでの説明が行われた。人生100年時代を迎えた現在、これからの生き方を考えるために公的年金の種類や農業者年金の特徴について情報が提供された。参加者からは、「税制上のメリットがあり働き盛り世代は加入しておいて損は無い」、「過去にサラリーマン経験があるが加入できるのか？」など意見や質問があった。今後も本制度について疑問等があれば講師の指導の下対応することとした。

当課では、今後も様々な研修の場を設け、農業者の経営安定に向け支援していく。



研修会の様子

### 3. 和歌山地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施

12月9日、和歌山地方生活研究グループ連絡協議会（会長：奥 博子氏）は、県産品の活用についての知見をより広げるため、和歌山市にある休暇村紀州加太でリーダー研修会を開催し、会員15名が出席した。

会長挨拶の後、休暇村紀州加太総支配人義本英也氏から「笑ってごまかせ！」と題して、休暇村での地産地消の取組や郷土料理の活用、それらをPRする方法について講演いただいた。講演後の義本氏も含めた意見交換では、各生研グループの活動内容を紹介し合うとともに、本活動を多くの人に知ってもらうためにはどうすればよいかについて議論がなされた。会員からは、「地産地消や郷土料理についての新たなアイデアを知ることができてよかった」などの感想があった。

今回の研修で休暇村紀州加太の取組について知ることができたほか、人の心をつかむようなPR方法についてもヒントを頂いた。これらの知見が今後の活動に活かされることを期待する。



義本氏による講演



意見交換

### 4. 和歌山県の農業と行政の取組について出前授業を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に、農業や地元の農作物に興味、関心を持ってもらうため、出前授業に取り組んでいる。

12月20日に、和歌山市立川永小学校の5年生51名を対象に、和歌山県の農業の現状と行政の取組についての出前授業を行った。

和歌山県の農業について説明する中で、農業が抱える課題や解決策について児童に考えてもらいながら授業を進めた。児童たちは問いかけに積極的に反応してくれ、「和歌山の農業を守るために和歌山県産のものを食べるようにしたい」「都会や海外から和歌山に移住してきた人に農業を始めてもらったらいい」などの意見があった。

行政の取組を知ってもらうとともに農業のために自分たちができることを考えてもらう良い機会となった。



授業風景

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. アグリビギナー研修会を開催

12月16日、農業水産振興課では、就農5年目までの新規就農者や研修生を対象とした「アグリビギナー研修会」を開催し、23名が参加した。

日本野菜ソムリエ協会主催「第2回いちご選手権」入賞や、「第3回桃選手権」最高金賞と金賞を受賞した紀の川市の前田農園代表前田浩文氏を講師に迎え、こだわりの農法や販売手法について座談会形式で講演いただいた。前田氏からは、微生物農法、酸素資材・アミノ酸資材について説明があり、自身が使っている資材と施用方法の紹介があった。また、参加者に対し、常に作物の状態を観察し、どうすれば良いか仮説をたてて検証してほしいとアドバイスされた。販売手法については、これまでの販路について説明され、EC販売で気をつけている点として、丁寧な梱包と早期のクレーム対応をあげられた。

講演後、参加者からかん水時の水温や微生物の施用、EC販売における販路選択など多くの質問が上がった。



前田氏による講演



積極的に質問する参加者

### 2. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を実施

12月11日、12日、農業水産振興課では岩出市立岩出中学校の2年生（7クラス248名）を対象に郷土食体験を実施した。

この取組は、地元で伝わる「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使用した「ごま和え」の調理実習を通して、地域農業や郷土料理について学ぶことを目的としている。

講師は、岩出市生活研究グループ協議会（会長：小崎育子氏）の役員が務め、食材は会員が栽培、加工したものを用いた。

生徒は会員から丁寧な指導を受けながら、和気あいあいと調理していた。

試食会では、野菜が苦手な生徒も完食し、食べ残しなかったことが印象的であった。



調理実習の様子

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 隅田地域農産物利用推進協議会が第 39 回野菜祭りを開催

12月8日、隅田地区公民館にて隅田地域農産物利用促進協議会（会長：乾 幸八氏）主催の「第39回野菜祭り」が開催され、隅田地域の生産者が手塩にかけた自慢の農産物が合計156品出品された。伊都振興局とJAの担当者が審査を行い、その中から橋本市長賞をはじめとした、20品が優秀な農産物として選出された。

出品された農産物は審査後に購入することができ、当日は多くの購入者が訪問し購入した。購入者からは「毎年開催されるこの祭りで購入できる野菜はおいしい」と好評であった。



展示風景



賞状授与

#### 2. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

##### ～農業技術講習会（果樹コース）第5回を開催～

12月10日、農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的にかきの栽培技術講習会を開催し、3名が受講した。

講義では、はじめに森口普及指導員が、冬季のかきの管理作業として間伐・縮伐や整枝・せん定、土壌改良、粗皮削り等の目的や方法を説明した。その後、浅井普及指導員から、冬から春にかけての病虫害防除について説明をした。

その後の現地実習は、九度山町のかき園で行い、「刀根早生」の整枝・せん定の実演を行いながら方法を説明した。受講者からは、「側枝の更新方法」や「春以後の枝の伸び方」等についての質問があった。

当課では、今後も講習会（果樹）を実施し、栽培指導を行っていく。



講義の様子



せん定の実演



### 3. 農業技術講習会野菜コース（マメ科野菜と軟弱野菜）の開催

12月12日、農業水産振興課では農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会（野菜コース）第3回を開催し、4名が受講した。

当課の山田主査から、さやえんどう、いんげん、そらまめ、ほうれんそう、しゅんぎく等を中心に各品目別の特徴、栽培管理、主要病害虫防除等のポイントについて講義を行った。

受講者からは農薬の散布回数や種類について、意見があった。

当課では、今後も果樹コースや野菜コースに分けて講習会を開催し、農業の担い手育成と栽培技術の向上を図っていく。



講習会の様子

### 4. クビアカツヤカミキリ対策研修会及び掘取研修会の開催

12月24日、かつらぎ町総合文化会館にて伊都地方の農業者や関係者等を対象に対策研修会を開催した（生産者・関係者ら約40名が出席）。研修会では農業水産振興課からクビアカツヤカミキリの生態、被害発生状況、防除対策などに続いて、事業説明やその申請方法などの説明を行った。これまでクビアカツヤカミキリの被害を受けた樹は補助事業を活用して伐採する方針で防除対策を進めてきたが、全域にクビアカツヤカミキリがまん延した伊都地方では、この方針を進めると産地がなくなってしまうので、今後は被害が少ない樹については掘取を徹底し、できるだけ樹を温存する方針を伝えた。

また、かつらぎ町佐野のもも園に場所を移し掘取研修会を開催した（生産者・関係者等約20名出席）。当課職員が掘取方法について説明した後、生産者らが直接掘取を体験した。参加者は「やり方は簡単やけど根気がいる」と感想を述べていた。

今後は、伐採のみではなく、掘取を積極的に進め、樹を温存しながらクビアカツヤカミキリ対策を行っていく。



対策研修会



掘取を行う生産者ら

## IV 有田振興局

### 1. 浜のうたせにおいて「有田みかん」及び「日本農業遺産」をPR

有田地域農業振興協議会と有田みかん地域農業遺産推進協議会は、12月7日、有田市の産直市場「浜のうたせ」において、有田みかんと日本農業遺産「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」のPRを行った。

訪れた方に向け、日本農業遺産ポスターの展示やPR動画を放映し、有田みかんとチラシを配布した。県外から訪れる方も多く、「甘くておいしい」、「もっともらえませんか」といった声が寄せられ好評をいただいた。また、「農業遺産について初めて知りました」といった声も寄せられ、認知度向上に一翼を担った。

本活動により、約800名に対して有田みかんと日本農業遺産認定を周知することができ、今後の消費拡大や産地振興に期待している。

農業水産振興課では、今後も両協議会と連携し有田みかんや農業遺産のPR・認知度向上に取り組む予定である。



有田みかんの配布



のぼり旗設置によるPR

### 2. 温州みかん「あおさん」の特性調査を行っています！

温州みかん「あおさん」は湯浅町で発見され、熟期が1月と遅く、浮皮の発生が少ない食味に優れた期待の新品種である。

農業水産振興課では、有田管内での品種特性を把握するため、果樹試験場と協力し現地での品質調査を行っている。12月から管内の8園地で月2回の品質調査を開始し、果実肥大や糖度、酸含量を調査している。「あおさん」は、生産者からの期待も大きいため、特性を十分に把握し、得られた情報は今後導入を検討している生産現場へ提供していく。また、有田地域における適正な出荷時期など、品種としての位置づけを決定していく予定である。



結実した「あおさん」



「あおさん」の品質調査

## V 日高振興局

### 1. 第39回美浜町農産物品評会が開催されました

12月8日、美浜町農業まつり実行委員会と美浜町農業振興研究会（両組織とも会長：久保博巳氏）が主催で、農産物品評会が開催された。町内から134点の農産物が出展され、きゅうり、玄米、ねぎ、みかん等様々な品目が集まった。

前日の12月7日にJ A紀州と農業水産振興課職員で出品物を審査し、8名が入賞。最優秀賞である和歌山県知事賞には、道端ゆみ子氏のきゅうりが選ばれた。

式が終わると同時に出品物の購入を目的に人が詰めかけ、賑わいのある品評会となった。



和歌山県知事賞を受賞した道端氏のきゅうり



品評会の会場に集まった新鮮な農産物

### 2. 温州みかんの冬季ジベレリン散布研修会を実施

12月26日、当課主催で、由良町農業士会、J A紀州、農薬メーカー協力のもと、ジベレリンを活用した花芽着生量の調整技術の研修会を開催したところ、11名の参加があった。

研修会では、メーカー担当者からのジベレリンの特性説明や、柏木普及指導員から昨年度の散布試験結果を説明した後、注意点として「樹の状態、散布量や天候などそのときのタイミングにより、効果の現れ方に差があることがあるので、初めて散布する際は、少量から散布を始めて、慣れて効果が確認できてから全体的に散布して欲しい」と参加者に呼びかけた。

その後、農業士会員の園地で散布方法の実演を行った。

参加者からは、「隔年結果是正や樹勢回復とともに摘果負担が軽減できれば理想的な技術である」との意見があった。



ジベレリン説明の様子



ジベレリン散布調査の説明

## VI 西牟婁振興局

### 1. 稲成いちご研究会が栽培圃場の巡回調査及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術の高位平準化及び高品質安定生産を図るため、毎年、定植前（9月）と共同出荷前（12月）の2回、栽培ほ場の巡回調査及び意見交換会を行っており、2回目を12月3日に開催し、研究会会員、JA紀南営農指導員、当課普及指導員合わせて11名が参加した。

はじめに、会員の栽培ほ場を巡回調査し、開花や生育状況、病害虫の発生状況を確認した。その後、JA紀南の販売担当職員から令和6年度産の出荷規格について説明があり、共同出荷について会員内で確認を行った。

続いて、農業水産振興課からは、今年度から普及指導計画で実施している施設内環境の測定調査の内容について資料をもとに説明した。

当課では今後ともJA紀南と連携し、スマート農業に関する勉強会の開催、ほ場の巡回調査、意見交換会で情報を共有するなど、同研究会の活動を支援していく。



現地検討会の様子

### 2. 中辺路町生活研究グループが中学校で出前授業を実施

12月11日、中辺路町生活研究グループ（会長：森川敏子氏）は、田辺市立中辺路中学校3年生の生徒12名を対象に、鹿肉、イタドリ、梅干し、はやと瓜など地元食材を使った調理実習の出前授業を実施した。

グループ員4名が講師となり、「鹿肉の竜田揚げ」、「鹿肉のつくだ煮」、「イタドリのサラダ」、「はやと瓜の甘酢漬」、「梅ごはん」の5品を調理した。ジビエ肉を初めて調理する生徒がほとんどであったが、講師のアドバイスを聞きながら、皆で協力して手際よく調理した。どの料理も好評で「また作ってみたい」との声も聞かれた。

中辺路町生活研究グループでは、今後も中学校での食育活動を継続していく予定であり、農業水産振興課においても支援していく。



調理実習に取り組んでいる様子

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

#### 1-1.～いちご定植ほ現地巡回を実施～

12月5日、那智勝浦町苺生産組合(会長：松出真紀氏)は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植ほ現地巡回を実施した。当日は生産者9名、JAみくまの職員2名、当課1名の計12名が出席し、各生産者のほ場を巡回した。

各ほ場では、共同出荷の開始及び目慣らし会の実施時期を検討するため、生育や病害虫の発生状況などの確認を行った。昨年と同様に夏の暑さによる収穫時期の遅れや、残暑による花の小ささが見られた。現在の収穫状況や電照の時間帯や照射時間、病害虫の発生状況などについて生産者で意見交換を行った。



栽培状況の検討

#### 1-2.～くろしおイチゴ生産販売組合が先進地視察研修を実施～

12月12日、くろしおイチゴ生産販売組合(会長：松出真紀氏)は、田辺市内(稲成町、芳養町)のいちごの栽培ほ場を視察した。当日は、生産者8名、JAみくまの職員2名及び当課1名の計11名が参加した。

初めに、田辺市稲成町でいちごの栽培ほ場を見学した。ほ場主からいちご高設栽培「とこはる」システムについて説明があり、参加者は交流を深めながら、マルハナバチの利用や培地加温の温度調整、今年度の育苗や、病害虫の発生状況などについて質問があった。

続いて、田辺市芳養町でいちごの栽培ほ場を見学した。ほ場主から環境制御の取り組みや施設整備の背景などの説明があり、参加者からは炭酸ガス局所施用による効果や育苗における底面給水などについて質問があった。

視察先では紫外線照射装置や炭酸ガス局所施用機など当地域では導入していない栽培設備が整備されており、今後実践する際の参考になった。



現地研修(田辺市稲成町)



現地研修(田辺市芳養町)

### 1-3.～出荷検討会（目慣らし会）を実施～

12月20日、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）は、出荷基準の統一を図るため、JAみくまの営農経済センターにおいていちご「まりひめ」の出荷検討会（目慣らし会）を実施した。当日は、生産者10名、市場関係者1名、JAみくまの職員2名及び当課1名の計14名が参加した。

松出会長から「今年度のいちご栽培は夏の猛暑やヨトウムシ等の被害、雨不足や残暑といった過酷な栽培となったが、日中の寒暖差のおかげでおいしく仕上がってきている。収穫、出荷は始まったばかりだが、今日は規格・着色の確認を慣らしていただきたい。」と挨拶があった。

前年度は少し完熟気味での出荷になってしまっていたことから、出荷されたいちごの色づき・大きさや荷姿を確認し、参加者で出荷基準の統一を行った。



いちごの色づき・大きさを確認

## 2. くろしおナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月10日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、新宮広域圏公設地方卸売市場で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者2名、市場関係者4名、JAみくまの職員1名、当課2名の計9名が参加した。

今年は、生産者が1名増えたため、出荷量は前年より増加したが、7月から8月まで猛暑や水不足、カメムシ等の虫害が甚大だった。組合員らは、良苗の確保とほ場の選定に努めること等を話し合った。また、今年度から新たにナス栽培に取り組んだ生産者から「仕立て方に課題が残った。来年は支柱の確保および誘引、せん定の技術を向上させたい。」との声もあった。

当課から、経営改善計画の重要性を通知し、その中でナスは優良品目なので増やしてほしいと伝えた。



なすの栽培出荷検討会

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 第5回農林大祭を開催

12月1日、実行委員会が中心となって農林大祭を開催した。この祭りは実りへの感謝と学校紹介や新鮮な農産物の販売を通じて地域のみなさまとの交流を深めることを目的として開催しており、4年振りの開催となった。今年度は「みんなで創る、笑顔あふれる、農林大祭」をテーマに、学生らは一丸となって準備を進めた。

内容は、学生や社会人課程の研修生が丹精込めて育てた農産物の販売、学校紹介、模擬店、ビンゴ大会や餅まきなどを実施した。学校紹介では、学生が果樹・野菜・花きの各ほ場を説明して案内した。当日は、晴天に恵まれ、たくさんのお客様、保護者や卒業生に来ていただき各コーナーは賑わった。



餅まきの様子



販売の様子

### 1. スマート農機演習を実施

12月17日、農林大学校において本校1年生17名と社会人課程受講者6名を対象に、スマート農機演習（無人航空機（ドローン））を実施した。

当日は株式会社未来図から講師が来校し、ドローンのデモ飛行が行われた。また、ドローンを農業利用する際の関係法令や実際に現場でのドローンの活用事例についての講義があった。

学生からは「ドローンでの農薬散布ができれば夏場の農薬散布が楽にできそう」「自分の家の農地でも使ってみたい」等の感想があった。



デモ飛行前の説明



ドローンのデモ飛行の様子

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489